

令和5年度 静岡市健康福祉審議会
第1回高齢者保健福祉・介護保険合同専門分科会

1 日時

令和5年7月20日（木） 午後7時15分から午後8時45分まで

2 場所

静岡市役所本館3階 第一委員会室

3 出席者

【出席委員】

○高齢者保健福祉専門分科会

東野会長、天野委員、遠藤委員、大石委員、北島委員、清野委員、小林委員、
猿田委員、鈴木委員、田中委員、田宮委員、原川委員、福田委員、望月委員

○介護保険専門分科会

富安会長、石川委員、石田委員、市川委員、長田委員、狩野委員、国京委員、
杉山委員、宗委員、高山委員、谷口委員、原川委員、八木委員

※欠席：小澤委員

【事務局】

○地域包括ケア・誰もが活躍推進本部

千須和本部長、酒井本部次長、森川次長補佐、石上参事、南條係長、石川係長、下山係長、
森山主任主事

○高齢者福祉課

杉原課長、海野課長補佐、深沢係長、村松主査、佐藤主任主事

○介護保険課

平林課長、橋本係長、増田主任主事

○健康づくり推進課

山下典子参与、松野課長補佐

○地域リハビリテーション推進センター

望月所長、内藤係長

○区高齢介護課

見城課長（葵）、吉良課長（駿河）、深澤課長（清水）

4 傍聴者 0人

5 概要

(1) 開会

(2) 本部長挨拶

委員の皆様におかれましては、本分科会の委員就任を御了承いただきありがとうございます。

任期は、令和7年3月末日までの2年間となっておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、今年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、第5類になりました。感染症影響下における様々な行動が抑制された生活から、普段の生活を取り戻す方向への動きが加速化してきたように感じております。

本市の健康長寿施策などの取組も、正常化又は強化を図ってまいりたいと思います。

その一方で、県内の感染拡大の状況を鑑み、7月14日に静岡県が感染拡大注意報を発令しました。このため、場面に応じて必要な注意を払いながら行動していかなければならないとも考えています。

さて、本日の会議の議題ですが、静岡市健康長寿・誰もが活躍のまちづくりの改訂でございます。本計画は昨年度、旧計画が終期を迎えたため、次期総合計画の策定と併せて新たな計画を策定し、本年4月からスタートしたところです。

今年度スタートした計画をなぜ改訂するのかですが、本計画は、法定の高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画を含んでおり、それらの計画期間が今年度で終了することにより、新たな計画を策定する必要があります。このため、2つの計画に該当する部分につきまして、本計画の一部を改訂させていただくものです。

委員の皆様におかれましては、今回の一部改訂がより効果的なものになるよう、それぞれの御専門の観点から、また市民の目線から、忌憚の無いアドバイスや御意見を賜りたいと存じます。本日はよろしくお願いいたします。

(3) 高齢者保健福祉専門分科会会長挨拶

新型コロナウイルスの5類化等に伴い、高齢者の活動も日常に戻りつつあるというところがございます。2025年、2040年を迎えるにあたり、人生100年時代という話が出てきておりますが、高齢化するのはいいのですが、一方で高齢者を支える担い手不足という、新たな問題が発生しているのも事実でございます。この計画の中でそういった問題をどう解決していくかが問われるところがございます。具体的な施策の内容を、分科会等で検討していくことになると思いますので、委員の皆様には、専門的な見地で、是非忌憚のない御意見をいただければと思います。

(4) 介護保険専門分科会会長挨拶

今回は、静岡市健康長寿・誰もが活躍のまちづくり計画の改訂ということで、非常に資料も多く読み込むのも大変だったかと思います。それだけ介護保険の制度の中で、皆様が力を合わせてつくってきたものが成果として出てきているのではないかと思います。本日は忌憚のない御意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(5) 議題 静岡市健康長寿・誰もが活躍のまちづくり計画の改訂について

(酒井本部次長) 資料1、資料2について説明

(平林課長) 資料3、参考資料4について説明

(杉原課長) 参考資料5-1について

(杉山委員) 事業者連絡会として一番力を入れてほしいのは、介護人材の確保です。ケアマネも含め、現場で高齢者の皆さんを支えていく人材が本当に不足しており、それを確保するために人材派遣等も使っている状況です。人材派遣は一時的な対策にはなりますが、介護現場の質の低下につながっています。介護人材確保事業については静岡県が主導としていますが、静岡市独自でも人材確保についての取組があるのかなのか、またどういったかたちで周知していくのかを教えてください。

(平林課長) 市の取組としては、現在、介護現場DX推進事業、研修実施、研修費用助成等を行っています。県は基金を活用し、外国人材登用や機器導入支援等、幅広く実施しておりますが、静岡市はそこまでできていません。現在実施している事業は継続しつつ、県と協力しながら、県のやれていない部分を入れて具体化していきたいと思えます。

(福田委員) 社会福祉士会としては、福祉の現場は共生社会の実現ということで、高齢者の問題を解決しようとするときに、家族の問題を解決しなければ解決しないということが見受けられます。静岡市の計画に挙げられておりますが、共生社会実現に向け、「重層的支援体制整備事業」の具体的な取組をどのように進めていくのか、少し教えていただければと思います。またこの計画とどのようにリンクしていくのかも教えていただけると。

(千須和本部長) 直接は福祉総務課が担当しておりますが、本日参加しておりませんので、具体的なお話を差し上げるのは難しいところがございますが、おっしゃるとおり、高齢者だけ見ればよいということではなく、8050問題など、課題は大変複雑多岐にわたっていると思えます。静岡市も重層的支援体制整備事業で、色々な機関がネットワークを組んで取り組んでいかなければなりません。既にやっていたところもあり大変感謝しておりますが、もう少しシステムチックにできる方向で検討していると聞いております。皆様の力を連携させて、うまく回っていく体制づくりについて、これからしっかり取り組んでいかなければならないと思えます。

(宗委員) 概ねよいとは思いますが、もう少し対象となる方にこういうことをやっているというアプローチがあると充実すると思えます。もう少しわかりやすく伝えられる方法があるのではないのでしょうか。

(八木委員) 介護職の人数が不足しており、また外国人を採用しているところもあります。静岡市として外国人の方の住居の補助金等を検討し、魅力ある静岡市、働きやすい場所づくりを考えていく予定はあるのでしょうか。

(平林課長) 県において、県内全市町対象に、外国人の方向けの事業等は行われております。県と情報共有しながら、市としてどのように協力していけるか、模索していきたいと思います。

(鈴木委員) 資料3「居宅要介護者の効果的にサービス利用方法…」とありますが、これはサービスの内容というよりは、組み合わせということでしょうか。新たな事業を考えるというのはなかなか難しいと思いますが。

(平林課長) おっしゃるとおりです。どのようなサービス利用によって効果的に支えることができるか、関係者のヒアリング等を行った上で検討していきたいと思います。

(鈴木委員) 資料3「介護者負担の増大への対策…」というのは、介護に携わることによる負担を軽減するという事ですね。そうなってくると介護サービスで賄うことになると思いますが、介護を実施する負担を減らすということと捉えてよろしいでしょうか。

(平林課長) 介護サービスの充実ももちろんあると思いますが、心理的な負担もあると思います。介護者の負担軽減については様々な角度から対応策を考えて、計画の中で推進していきたいと思います。

(鈴木委員) 介護離職の防止がゴールだとすると、他の人に賄ってもらうしかないと思うので、主語をはっきりさせた方が良くと思います。また PFS について、事業者実績に応じてインセンティブを与えるということでもよろしいのでしょうか。

(酒井本部次長) コロナ等もあり、高齢者の社会参加機会が減少し、フレイルリスクが高まっているということから、介護予防事業の参加率を向上させる必要がございます。そのために、PFS という、事業者に成果を定めそれに応じた額を支払うという取組を行うことで、民間の知恵やノウハウを活かし、これまでにない介護予防事業を実施することで、介護予防全般に努めていきます。

(鈴木委員) 介護予防事業は要支援の方が対象ではなく、一般介護予防事業ですか？

(酒井本部次長) 一般介護予防事業です。

(鈴木委員) 一般介護予防事業は、地域の方々が実施していると思いますが、その方たちがやるのは難しいかなと思います。きちんと事業として成り立つようにしていかないと、実りのあるものにならないなと思いました。

(大石委員) 認知症の家族の方と接する機会もよくありますが、そこで聞くのは、介護者も高齢だが、周りからは要介護者本人の面倒をよく見てくれないと困ると言われ、そのこと自体が介護者にとっては負担になっています。四六時中見ているわけにはいかない、絶対警察の世話にはなってほしくない、何かあったら警察に叱られる、そういったことが介護者にとっては現実なんですよね。そういったことが家族

自身の負担になっています。介護者の負担を軽減するのであれば、どのように対応していくのかをもっと具体的に示していただかないと、介護者にとっては意味のない計画になってしまいます。人間味のある、人間味のある支援を考えていただきたいと思います。

(狩野委員) 会議資料が膨大ですが、本当に言いたいことはなんだったのかを、もう少しコンパクトにまとめられているとよいかと思います。資料3のグラフも、一つにまとめてもらうと見やすいかと思います。また2年間だけを見て傾向を見るのは難しいかと思いました。

(富安会長) 全体を通じて意見等あればお願いします。

(東野会長) 膨大な資料で読み込むのが大変だったと思いますが、どれ1つ欠けてはいけない内容かとは思いますが、まだご意見があると思います。まだ計画開始したばかりですので、これから具現化していく内容がまだまだあるかと思ったり、市の予算は毎年要求していった内容を考えていくので、皆様の御意見を是非計画の中で実現できれば、もっとよい計画になると思います。

本日の資料に意見書がありますので、事務局に御提出いただければ、検討なされると思いますので、気づいた点があればと思います。

以上、この議事録が正確であることを証します。

令和 5 年 11 月 9 日

議事録署名人

栗岡定律

令和 5 年 11 月 9 日

議事録署名人

富安真理

